

## ■動く図書館の今後の方向性について

読書の振興をめざして運行開始から75年を迎えた動く図書館が、引き続き市民の読書環境の維持向上のために役立つものであり続けるために、次代に合わせたサービス内容の可能性等を検討するものです。

### 1. 動く図書館の現状

#### (1) 目的・意義

最寄りの図書館からの距離が遠いエリアに出向き、本棚から本を選ぶ楽しさ、読書に親しむ機会を届ける。

#### (2) 主要サービス

##### ①各ステーションへの巡回

4週間に1回ずつ。1回あたりの滞在時間20分～2時間  
休日の運行は土曜日のみ（ひと月で2回、2か所）

##### ②あおぞらおはなし会

ステーションでの絵本の読み聞かせ等。多くのステーションで年1回実施

##### ③施設巡回サービス（来館が困難なこどもの通う施設へ）

豊中支援学校、児童発達支援センターへの巡回 4週間に1回程度。  
年1回お話し会も実施

#### (3) ステーションごとの利用者数等の推移（別紙 省略）

#### (4) 現状の主要利用者層（別紙 省略）

- ・高齢者、子育て世帯、近隣こども園・支援学校等

#### (5) 現時点での評価・課題等

- ・全体の傾向として利用者数は伸び悩み、あるいは微減であるが、この傾向は既存図書館の利用者数の推移と比べて、それほど違いがある訳ではない。長年にわたり一定の利用者数を維持している箇所も多い。底堅いニーズは確認でき、動く図書館の基本的な役割、意義は今後においても失われたいと思われる。
- ・一方、地域によって利用者数が大きく乖離している（既存図書館にも同様の状況が窺われる）。
- ・現状では巡回先を一気に大きく増やすこと難しく、またインターネット予約や電子図書の普及、充実など、読書に親しむ環境の選択肢等も広がりつつある。主な運営時間帯が平日昼過ぎであり、新たな利用者層の開拓にも課題を残す。
- ・運営時間中、椅子に座ってしばらくの間読書に耽ったり、井戸端会議さながらに立ち話をしたりする利用者の姿が散見され、動く図書館を媒介とした、屋外の居場所、交流拠点としての可能性を感じている。
- ・中央図書館整備に伴う図書館ネットワーク再編も踏まえて、今後の動く図書館

の意義、役割等を改めて捉えなおし、サービス内容等の充実により、利用者増、満足度向上につなげる。

- また動く図書館の仕組みを今後とも安定的に維持していくためには、動く図書館を利用しない人にもその意義等に共感してもらう取り組みが必要。
- 動く図書館の車両のリース期限が令和9年1月末。読書に係る機能に加えて、様々な地域課題の解決に資する観点等から更新後の新たな車両にどのような機能を実装すべきか、検討が求められている。

## 2. 動く図書館のめざすべき今後の方向性（案）

### （1）動く図書館が創出する価値

- ① 市民の情報へのアクセスを保障する
- ② アウトリーチにより、本との出会いを届け、読書に親しむ人を増やす。
- ③ 読書だけでなく、交流の機会等を通して、暮らしの豊かさを届ける

### （2）上記価値の維持・向上のためのアクション

#### A 動く図書館に関するアンケート

- 本市図書館職員アンケート（別紙 省略）
- 動く図書館に関する市民認知度等調査結果概要（市LINE登録者へのアンケート）（別紙資料2参照）

#### B 先進事例把握

#### C 具体的施策の方向性

- ① 「市民の情報へのアクセスを保障する」視点から
  - 休日巡回の充実（土曜巡回増設、日曜巡回開始）
  - 巡回場所の一部再構築
  - 巡回場所・時間等周知強化（市子育て応援アプリ「とよらあみ」など、アプリによる通知の充実）
  - こまめな蔵書更新で多様な資料との出会いを創出
- ② 「読書に親しむ人を増やす」視点から
  - ステーションごとの需要に応じた積み込み
  - 司書としての働きかけ（魅力ある棚づくり、子どもと本をつなぐ取り組みの充実、さまざまな本／情報／人と出会おうきっかけづくり）
- ③ 「暮らしの豊かさを届ける」視点から
  - 交流機会、居場所としての機能等の拡充
    - その場でゆっくり選書、閲覧できる環境整備（椅子の増設等）
  - 読書以外の目的でも立ち寄ってもらえるよう、他のサービス等も提供
    - 関連部局等との連携による子育て・健康関連サービスなどの提供
- ④ 動く図書館のリブランディング

○動く図書館を市民の財産として、普段は利用しない市民層にもその価値を伝え、共感を得ていく。特に子育て世帯層への働きかけを意識

・公園での大規模イベント等への参加

⑤その他

○司書職員のキャリア形成の視点から

司書職員の育成に効果的な業務として、少しでも多くの職員が動く図書館の業務を体験できるよう工夫する。

○上記①～④やその他の地域課題の解決等に寄与する視点から、車両設備等に対する利用者のニーズ等も把握しながら、リース更新後の新たな車両への具体的な実装機能等の検討

・本だけでなく、地域の人とつながる、地域情報等が得られる場所となるための車両へ

・国内外の最新事例調査により、夢のある更新案を目指す

・動く図書館の実利用者からの意見募集（令和8年度）

・想定する追加実装機能（デジタルサイネージ、装備品増強（椅子等））

D 実施工程

○原則、令和8年度準備・検討⇒令和9年度から順次開始

○動く図書館のリース更新時期は別途検討